

安全データシート

作成日：2010年2月18日

改訂日：2023年4月1日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : シーカ°コントロール
整理番号 : 2131
供給者情報
会社名称 : シーカ・ジャパン株式会社
住所 : 東京都港区元赤坂 1-2-7 赤坂Kタワー7F (〒107-0051)
担当部門 : オペレーションズ&サプライチェーン Q-EHS
電話番号 : 03-6434-7291
緊急連絡電話番号 : 0463-24-4976
推奨用途及び使用上の制限
推奨用途 : コンクリート用化学混和剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 : 区分に該当しない
健康有害性
生殖毒性 : 区分1B
環境有害性 : 分類できない

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。

注意書き

【安全対策】

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

【保管】

P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

P501 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質
化学名又は一般名 : コンクリート用化学混和剤

危険有害成分

化学名	濃度	CAS 番号	官報公示整理番号
ジエチレングリコールモノメチルエーテル (不純物)	3.2%	111-77-3	(2)-422
エチレングリコールモノメチルエーテル (不純物)	1%未満	109-86-4	(2)-405

成分及び含有量

ポリオキシアルキレンアルキルエーテル	;	≥95%
ジエチレングリコールモノメチルエーテル	;	3.2%
エチレングリコールモノメチルエーテル	;	1%未満

4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 必要に応じて医師の診断／手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	:	多量の水と石鹼で洗うこと。 必要に応じて医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合	:	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 必要に応じて医師の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	:	気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状		重要な影響または危険性は不明
応急措置をする者の保護に必要な注意事項		救助者はゴム手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	粉末消火薬剤、泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、霧状水
使ってはならない消火剤	:	情報なし
火災時の特有の危険有害性	:	燃焼ガスには、一酸化炭素、二酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。
特有の消火方法	:	火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は可能限り風上から行う。周囲の設備などに散水して冷却する。関係者以外は安全な場所に退避させる。消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置		消火作業の際には、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置		作業の際には必ず保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。 多量の場合は、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項		漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材		少量の場合、吸着剤（土・砂・ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。
二次災害の防止策		付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 火花を発生しない工具を使用する。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

危険有害反応可能性	: 特記すべき反応性なし。
避けるべき条件	: 混触危険物質との接触
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

1.1. 有害性情報

急性毒性	: 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 分類できない
呼吸器感受性	: 分類できない
皮膚感受性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: (成分のデータ) ジエチレングリコールモノメチルエーテル 妊娠ラットの器官形成期に経口投与した試験の高用量(1800 mg/kg/day または 2165 mg/kg/day)で、母動物の体重増加抑制と併せて同腹胎児数の減少、吸収胚の増加、奇形発生の増加が見られた(EU-RAR vol.1 (1999))。観察された奇形は全身水腫、尿閉、皮下血腫のような外表奇形に加え、重複大動脈弓、右側大動脈弓、心室中隔欠損の心臓血管系の内臓奇形が主であった(EU-RAR vol.1 (1999))が、内臓奇形に関しては用量依存的な増加を示し、母動物の一般毒性が現れなかった用量(600 mg/kg/day または 700 mg/kg/day)でも明らかに増加が認められた(EU-RAR vol.1 (1999)、HSDB (2007))。 (成分のデータ) エチレングリコールモノメチルエーテル ラット、マウスを用いた経口経路(飲水)での多世代生殖毒性試験において約 20-200 mg/kg bw/day 相当で生存産児数の減少、受胎率の低下、妊娠回数の減少等がみられた(NITE 初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95 (2005))。経口経路での催奇形性試験では、マウスにおいて母動物毒性がみられないか、体重増加抑制がみられる用量(60-300 mg/kg/day)において胎児死亡、前後肢の指の奇形(合指、短指、欠指、多指)、骨格奇形(頸椎弓の分岐・分離)、外表奇形(外脳)の発生率の増加、ラットでは、母動物毒性がみられない用量(31 mg/kg/day 相当)で心血管系の奇形、アカゲザルでは、12 mg/kg/day 以上で胎児の死亡、36 mg/kg/day では胎児の全例が死亡し、死亡胎児の1例で両前肢に指の欠損が報告されている(NITE 初期リスク評価書(2007)、ECETOC TR95 (2005))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない
誤えん有害性	: 分類できない

1.2. 環境影響情報

生態毒性	: 分類できない
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 分類できない

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
-------	-----------------------------------

汚染容器・包装の廃棄方法 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

1.4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 : 国連勧告の定義上危険物に該当しない。

国内規制

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

1.5. 適用法令

消 防 法 : 危険物 第4類第3石油類 水溶性液体 危険等級Ⅲ 火気厳禁

労働安全衛生法 :

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） ;
エチレングリコールモノメチルエーテル（政令番号80）

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）（令和5年4月1日以降）

2-（2-メトキシエトキシ）エタノール（管理番号751）

毒劇物取締法 : 該当しない

船舶安全法 : 該当しない

航空法 : 該当しない

1.6. その他の情報

引用文献

- ・ GHS対応ガイドライン、日本化学工業協会
- ・ GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- ・ GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）（JIS Z 7253: 2019）

この安全データシートに記載されている内容は、発行時における当社の最新の知識によるものですが当社はその内容につき何らの保証をなすものではありません。

保証については、当社の最新の一般販売条件が適用されます。

製品を使用または適用する前に、必ずプロダクトデータシートをご検討下さい。

発行変更履歴

作成日 : 2010年2月18日

改訂日 : 2017年5月31日 (R-1)

改訂日 : 2022年5月10日 (R-2)

改訂日 : 2023年4月1日 (R-3)